

2018年度 第3四半期決算説明会
主な質疑応答

● 全社

Q：今回の事業利益の修正額 150 億円を要因別に教えて欲しい。

また、第3四半期と第4四半期に分けるとどんな比率になるのか。

A：約4割が中国の経済減速影響で、大容量インクタンクモデル、SIDM、ロボット、マイクロデバイスでは水晶など、広範な事業に影響がある。

約3割が中南米を始めとしたエマージング地域での通貨下落・経済活動の停滞影響。

エマージング地域では、現地通貨の変動に応じて、現地販売価格を設定しているため、現地で大容量インクタンクモデルの販売価格が上昇したのも一因。ただし、4Qは販売施策を展開することにより、販売数量への影響を低減させる前提。

約1割は為替前提の変更による影響。

残りの約2割には、インカートリッジモデル本体の数量減少に伴い、本体新規購入時のインク売上が減少するなどのマイナス影響や、検討中であるプリントヘッド部品に係る在庫評価減の計上方法の変更による一時的なプラス影響などが含まれている。

第3四半期は、前回予想の前提となる社内計画に対しては、約30億円程度の未達であった。

Q：第3四半期の全社費用・調整額の増益要因である特許料収入は、前回予想に含まれていたのか。

A：前回予想にも含まれていた。

Q：販管費の増加が継続しているが、今後の見通しを教えてください。

A：オフィス・商業・産業領域の拡大に向けた戦略投資は一定部分残るがこれまでほどの増加は考えていない。

一方、ウェアラブル・産業プロダクツでは効率化を図るなど、メリハリを付けていく。

Q：今期で第1期中期経営計画が終わるが、第2期に向けての考え方を教えてください。

A：詳しくは、第2期中期経営計画説明会にて説明するが、ラインアップ拡充などにより、引き続き大容量インクタンクモデルを伸ばす。高速ラインインクジェット複合機もモデル拡充などにより伸ばしていく。売上は経済環境が不透明な中、厳しい状況が続く見込みだが、戦略商品によって利益率は向上を見込む。

Q：期末における在庫の適正水準はどの位か。

A：2017年度末が適正水準である。なお、大容量インクタンクモデルの割合が大きいいため、第4四半期での適正化は可能。

● プリンティングソリューションズ

Q：プリンター事業における大容量インクタンクモデルの販売状況ならびに通期見通しの前提を教えてください。

A：大容量インクタンクモデルの第3四半期での販売台数は、全体では前年同期を上回ったものの、中国や一部のエマージング地域での減速もあり、今期に入ってもっとも低い増加率となった。

中国では、チャネルでの在庫絞り込みの動きが見られたが、第3四半期末で適正化されている。

また、一部のエマージング地域では、経済活動の停滞に加え、現地での販売価格を上昇させたことで他社との価格差が広がったことなどで、販売は低調であった。第4四半期は、販売状況を見ながら、拡販施策を展開する。

●ビジュアルコミュニケーション

Q：プロジェクターの販売状況ならびに通期見通しの前提を教えてください。

A：北海道胆振東部地震の影響により、千歳事業所で基幹部品である小型液晶ディスプレイの製造が停止した。現在は復旧しているが、販売への影響は下期からホームモデルなどに出ている。また、レーザー光源搭載モデルの拡充に向けた費用投入を継続している影響もあり、利益は減少する見込み。

以上